

令和2年10月 市長定例記者会見

2020年10月5日(月)

午後1時30分 開始

【秘書広報課長補佐】 それでは、定刻となりましたので、ただ今から令和2年10月市長定例記者会見を始めます。

本日の会見の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長の挨拶、その後、事業発表をいたします。質問につきましては、事業発表についてからお願いしたいと思います。事業発表に係る質問応答終了の後に、次第の3番目、フリーの質疑応答へと進行したいと思いますっております。

なお、ご質問の際は、お手数ですが、まず挙手をお願いいたします。そしてご自席のマイクのスイッチを入れていただきまして、ご質問の後はお切りいただきますようお願い申し上げます。

終了は14時30分を予定しております。ご協力のほどよろしくをお願いいたします。

それでは、市長、よろしくをお願いいたします。

【市長】 では、10月定例記者会見、どうぞよろしくをお願いいたします。

まず最初に、先日、10月2日に9月議会が閉会になりました。おかげさまで全ての議案を通していただきましたし、最終日に打ち出させていただきました金ケ崎周辺のプロジェクトマップの夜間景観整備事業費なども承認いただき、ありがとうございました。

それから、10月3日ですけれども、国道8号敦賀空間再整備事業の完成ということで記念式典をさせていただきました。たくさんの方に来ていただきましてお祝いをできましたので、これもまた新幹線の開業後のにぎわいにつなげていきたいというふうに考えております。その後、丹後くろまつ号に乗せていただいて小浜まで行きましたけれども、やはり敦賀だけで新幹線効果が限定されるんじゃないかと、嶺南全域、また周辺の滋賀県北部等にもこの敦賀の終点効果が波及できるような仕掛けというのをつくっていかなくてはならないというふうに考えております。

その中で、今日の提出議題にもございますけれども、10月24、25日につきましては、敦賀駅西地区の社会実験を行いますし、10月31日土曜日につきましては、北陸新幹線敦賀開業に向けたシンポジウムの開催をさせていただきます。そしてまた翌11月1日につきましては、国道8号空間、今度は利活用のイベントの社会実験をさせていただこうという段取りであります。11月3日には、以前からご案内しておりますが、人道の港敦賀ムゼウムのリニューアルオープンと、それから7、8日に続いて人道ウィークということで進めてまいりますので、駅のほうからだんだんと氣比神宮のほう、そして金ケ崎のほうのにぎわいということを確認しながら、新幹線開業に向けた準備をしていきたいというふうに思っております。

また、ずっとコロナ禍の中で出張がなかなかできませんでしたが、こうやって落ち着いてきましたので中央要望についても回っていきたくて思っていますし、区長と語る会についても進めていきたいというふうに思っております。

では、今日はどうぞよろしくをお願いいたします。

【秘書広報課長補佐】 続きまして、事業発表をお願いいたします。

【市長】 事業発表4項目ございますので、よろしくをお願いいたします。

1つ目ですけれども、敦賀駅西地区社会実験の開催についてということで、10月24日土曜日、25日日曜日、敦賀駅西地区のAゾーンにおきまして社会実験を開催いたします。

今回の社会実験は、令和4年度末の北陸新幹線敦賀開業に向けて、本年3月に公表した敦賀駅西地区のゾーニングに基づき、エリアの中央に配置される公園・広場の整備後の民間活用を想定したものとなります。

なお、当日は、ケータリングエリア、スカイランタンの打ち上げ等の多様な民間活動を創出することで、訪れる市民の方々に、整備される公園・広場の利活用方法について考えていただく契機としたいというふうに考えております。

2番目に、国道8号空間利活用イベント（社会実験）の開催についてでございます。

11月1日日曜日10時から、国道8号2車線化により創出されました公共空間におきまして利活用イベントを開催いたします。

イベントでは、新たに生まれた空間の使い方を提案するとともに、利用者等へのアンケートを通じて課題抽出を行い、より使いやすい空間づくりにつなげてまいります。コロナ禍におけるイベントとなるため、検温ブースを設けるなどの感染症対策にも配慮いたします。

道路管理者である国土交通省のご協力も得ながら、より利活用しやすい空間となるよう取り組んでまいります。

それから、3番目ですけれども、人道の港敦賀ムゼウムのリニューアルオープンについてであります。

11月3日火曜日、祝日ですけれども、人道の港敦賀ムゼウムがリニューアルオープンいたします。セレモニーについては、コロナ禍の影響で、残念ながら海外からの招待者はいらっしゃいませんが、国内の関係国大使など約100名に招待状を送付させていただいており、関係者の皆様にムゼウムのオープンを盛り上げていただきたいと考えております。

人道の港敦賀ムゼウムについては、金ヶ崎エリアの中核施設として、市民をはじめ多くの方々に親しまれるような施設となることはもとより、金ヶ崎エリアの新たなにぎわい創出を目指してまいります。ムゼウムは、敦賀のオンリーワンの地域資源である人道の港敦賀の心温まるエピソードを紹介する資料館であり、敦賀港だからこそ伝えられる命の大切さ、平和の尊さを国内外に向けて発信してまいります。

また、オープニングの1週間をさらに盛り上げるために、人道の港国際文化交流ウィークを金ヶ崎緑地周辺で開催いたします。そのほか、「鉄道と港」まちづくり実行委員会によるミライエや鉄道フェスティバルなどが開催される予定です。どうぞよろしく申し上げます。

それから、最後ですけれども、4番目ですが、聴覚障がい者等支援用コミュニケーションボードの設置についてでございます。

このたび、聴覚障害者及び言語障害者などのコミュニケーションを支援するため、コミュニケーションボードを作成し、市役所には窓口を設置し、事業者の皆さんには市内コンビニエンスストア等に設置していただけるよう依頼を行おうというものでございます。

こういう資料がお手元にあるかと思いますが、市役所用と事業者さん用と2つ作りまして設置をお願いしてまいろうということでやっていきます。どうぞよろしく申し上げます。

発表項目は以上です。

【秘書広報課長補佐】 それでは、ただ今発表いたしました項目につきまして質問を受け付けさせていただきたいと思っております。最初に幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 ムゼウムのリニューアルオープンで、この11月3日から12月25日までミライエとあるんですが、このミライエというのはどういったものでしょうか。

【市長】 ミライエというのは、市民の皆さんでやっているんですけれども、イルミネーションをずっと金ケ崎の緑地に配置しまして、電源は家庭から出た廃棄油を使って、そこで11月3日から12月25日まで、冬場の閑散としたときににぎわいをつくらうということでやっていただいているものです。

【記者】 毎年やっているものなんですか。

【市長】 はい。毎年やっていただいております。

【記者】 了解です。ありがとうございます。

【市長】 詳しい球数とかは。

【副市長】 去年は50万球。

【市長】 今年の数。

【副市長】 後でお知らせします。

【記者】 それと、もう一つ。11月3日、これ見ると鉄道フェスティバルとあるんですけれども、これも毎年やっているものなんですか。

【市長】 はい。これも毎年やっております。いつもはばらばらでやるんですけれども、この日に重なって実行します。

【記者】 たまたまということですか、重なるといいますと。

【観光部長】 この11月3日、こちらウィークとしてお客さんが見込めるということで、より発信できるということで、「鉄道と港」まちづくり実行委員会がこの場におきまして、敦賀は鉄道と港で繁栄してきたまちですので、こういった機会を捉えましてやっていただくというものでございます。

【記者】 この点、詳細についてまた後日ということでしょうか。

【観光部長】 後ほどお話しさせていただきます。

【記者】 ムゼウムについて、ちょっと追加でご質問させていただきます。

濱上市長にとっても、このムゼウムのリニューアルというのはすごく肝煎りのものであるかなというふうに感じているんですけれども、あと、敦賀市の観光という面で見ても、すごく一大拠点となるような箱になっているんじゃないかなというふうに思います。ようやく完成というところを迎える中で、この新ムゼウムというのがどういう位置づけのものになるべきかと、どういうふうに使われているかというところを、市長、所感というか思いをお聞かせください。

【市長】 ムゼウムにつきましては、私が市長になったときからもあるわけなので、なかなか注目されないものでしたけれども、新幹線の受け皿づくりという部分で何か敦賀になるのかというところから始まったんですけれども。私のムゼウムに対する思いというのは、箱物という意味ではなくて、体験型ということでもなくて、歴史というものを、自分たちがこういう歴史を持っているということを発信できたらいいなど。

もう一つは、いろんな方とお話ししているときに分かりましたのは、日本の国というのは、戦前戦中を通じて国際貢献のない国なんだと、鎖国をしておりましたし、ナチスと組

みましたので。その中でポーランド孤児とかユダヤ難民の受入れというのは非常に国際的にも評価できるものなんだと、誇れるものなんだというお話も伺いましたので、敦賀を拠点として国内外にそれを発信できたらいいんじゃないかというところで力を入れて前に進めさせていただいております。そういう意味では、今回の11月3日のオープニングのときにもゆかりのある大使等が来られるというふうに一応予定の中にはありますので、そういう方たちからまた二次的にそれぞれの国のほうに発信していただけたらいいなと思っています。

ただ、今、赤レンガ倉庫があって新しいムゼウムがあるというだけではなかなか集客にはつながりませんので、新しいムゼウムの向かい側のほうに観光物販施設などを誘致することで金ヶ崎エリアというのを、一つのそういう広い、回遊できるようなものにしたいということが一つありますし。先ほども冒頭ちょっと申しましたが、新幹線が来るので敦賀だけで止めましょうというのは失敗だと思いますので、周りの地域と連携を取って広い観光エリアをつくることで1泊、2泊していただいて、敦賀の魅力をもう1回確認していただくという形を取りたいと。そのほうが経済的にもプラスになるというふうに思っています。

【記者】 観光物産施設のお話も議会の中でも少し触れられていたかなというふうに思うんですが、これについては、やはり2年半後の新幹線開業までに整備も含めて整えるというご予定でいらっしゃるのでしょうか。

【市長】 はい、そうです。それまでに全体のコーディネートをしながら、マネジメントをしながら進めていきたいというふうに思っています。

【記者】 あと、加えまして国道8号線の空間利活用についてなんですけれども、この間取材もさせていただいたんですが、完成式典が行われて、少しケータリングカーも置かれた状態の中で、広くなった歩道をどういうふうにするかというの少し見える部分も、市長も歩きながらあったんじゃないかなというふうに思うんですけれども。敦賀駅からムゼウムの辺りの金ヶ崎までのちょうど中間地点ぐらいの辺りにあるというところもあって、次のイベントというのは、北陸新幹線が来たときの動線というかそういうのがちゃんと見えるのかどうかということも一つ、このイベントでポイントになってくるかなというふうに思うんですが。その辺り、次のイベントについてどういうふうに考えられているかということと、実際にきれいになって整備されてどういうふうになっていくと、あの辺一体というものの交流というか、人が増えてというか、より歩くようになってというか、というふうになっていかなければいけないと思うんですが、その辺はどういうふうに考えていらっしゃるのでしょうか。

【市長】 そうですね。あそこを2車線化にしようとする話はずっと前からありまして、私が市会議員をしている頃からですから、10年以上前から2車線化という議論をしていたんですけれども。

よくある2車線化を計画していくときに、国交省さんの計画とか敦賀市の計画で皆さん納得してくださいねみたいな話になるんですけれども、そうすると、メイン道路ですし、かなり不完全なものができるんじゃないかと。そうではなくて、もっと議論をすればいいんだということで、あまりせかさずに議論しましょうということ、私が就任してから申し上げたんですけれども、その中で、やっぱり駐車場を減らさないというのは一つのテー

マとして、結果としてあったと思いますが、駐車場を減らさずに、あと空間を利活用できるようにということで今の形になったと思っています。ですから、地元の方々の意見は十分に取り入れて地元意見でつくりましたので、それなりに使いやすいものになったと思いますが、空間がたくさんできましたので、その空間の利用というのは、やはりいろんな可能性をチャレンジしないとできていかないというふうに思っていますので、今度の空間利用の実証実験の中でこういう使い方もあるねとか、この間のケータリングにしましても、こちら辺に置けば目立つねとかいうのを確認しながら、その辺で膨らませていけたらなというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 それでは、各社にお伺いいたします。発表項目につきまして質問がございましたら挙手のほうをお願いいたします。よろしいでしょうか。

【記者】 まず、コミュニケーションボードについてなんですけれども、大体使い方とかも見ると分かるんですが、改めて、今、どういう聴覚障害の方とのコミュニケーションに当たってトラブルというか問題があって、これを活用することによってどういうふうな解決というか改善が見られるかというふうに見通しているのかをちょっとお伺いしたいんですけれども。

【市長】 コミュニケーションボードについては以前から検討していたんですけれども、手話言語条例の議決もなされましたけれども、その中で、手話だけだとなかなか拾い切れないコミュニケーションの障害のある方たちがいらっしゃるということが分かっておりますので、いろんな方が使えるようなボードにできないかということを探している中で今回の形になったということです。ですから、市役所に来ていただいて、障害があるというのでこのボードをお見せすることで、例えば「スマートホンに入力してください」とか「手話のできる人を呼んでください」とか、これを指すことでその対応ができますので、ストレスが少し減るのかなというふうに思っています。それぞれ筆談とかいろんな、タブレットなんかでの対応もありますけれども、その前段階としてやりやすいものになるんじゃないかと思います。

それから、お店のほうのものは、例えば「割りばしをください」とか「レジ袋いります」とか「いりません」とかというのはすぐこれでできますので、そういう意味でも使いやすいんじゃないかなというふうに期待しております。もしこの辺を改善しなくてはいけないというお話が出てくれば、どんどん改善してやっていきたいというふうに思っています。

【記者】 大体何枚ぐらい準備して配布する予定なんですか。

【福祉保健部長】 こちらのほうは、市役所内は市役所内各課に設置をいたしますが、市内のコンビニエンスストアであったりドラッグストア、スーパーさんにつきましては、今後、まず趣旨をご説明をさせていただいて、現物を見ていただいて、各お店の使いやすいようにカスタマイズ等をさせていただいて配布をさせていただく予定でございます。

事業所的には五十数件ぐらいかなというふうに思っておりますが、枚数はそのお店によって1枚であったり2枚であったりとか、ご希望の数を配布をさせていただく予定でございます。

【市長】 コンビニエンスストアとかドラッグストアとかショッピングセンターなんかにはまず声をかけて、そこからスタートしていこうというふうに思っていますし、もし欲しい

んだという方がいらっしゃれば喜んでお分けしますので、幾らでも言っていたいただければと思います。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、次第の3番目、フリーの質疑応答へと行きたいと思います。これも幹事社さんのほうからお願いいたします。

【記者】 特にありません。

【記者】 先日、文科省からもんじゅの跡地の試験研究炉についての概算要求について説明があったかと思うんですけども、それに対して、今進められている状況と、その報告された内容について、そこでお答えになっているところもかぶる部分があるかと思うんですが、それについての所感をお聞きしたいということと、あと、今の文科省の進め方というか、にどういうふう感じていらっしゃるか、その辺をお答えください。

【市長】 この間の報告の中で少し申し上げましたけれども、中出力炉に絞り込んだという部分については、私ども、いかに地元の経済的な、また振興になるかということを行っていますので、そういう意味ではある程度考えていただいたのかなというふうに思っています。

ただ、実際にどれだけの経済的な振興につながっていくのか、これにつながっていくのかということとはなかなか見えてきませんし、示せないということをおっしゃっています。文科省さんの立場から言えばそれは当然だと思いますけれども、地元からすると逆にそっこのほうを先に示してほしいなという気持ちがありますので、その辺は、一部納得することは納得しますが、示してほしいなという気持ちは別であるという気持ちでおります。

もう一つは、もんじゅの廃炉のときに1,000人の雇用ということをお願いしていますので、1,000人の雇用は10年程度は大丈夫ですということをおっしゃっていますが、いずれ少なくなっていく数字ですので、それに対していかにほかの産業もしくは試験研究炉もプラスしてそれを補っていくか、カバーしていくかということは今後の課題ですので、その辺も議論を進めていけたらいいなというふうに思っています。

【記者】 ありがとうございます。

では、原発絡みで別件でちょっとお聞きしたいなとこのタイミングでと思うところがあります。県内に原子力発電所ができて50年で、敦賀1号機ができて50年、3月に建てると。お隣ですけども、美浜町の美浜1号ができたのが、ちょうど来月で50年を迎えるというところのちょっと節目のタイミングでもあるかなというふうに思うんですけども。そう言いながら両方とも廃炉になっているということと、再稼働についても滞っている部分も多々あるというところで、風力発電の動きもありながら、あとは敦賀火力発電所の1号機が脱石炭の動きでどうなるかということも、今後不透明な部分もあると。

ちょっとこういうふうにエネルギーを取り巻く環境というのが敦賀市の中でも結構変わってきている状況にあるなというふうに思うんですけども、全原協の会長という立場も含めて、今後、こういう敦賀市におけるというか、嶺南におけるエネルギー政策というのはどういうふうに進めていくべきかと、今どのようにその辺を考えられているのかをちょっとお聞かせください。

【市長】 ちょっと壮大な話になりますが。

私、市長になりまして、全原協のメンバーの皆さんといろいろしゃべらせていただくのに各役員さんのところを回ったんですけれども、そのときに一番最初に感じたのは、それぞれの地域のその市町の人たちというのは優しい人が多いなと思いました。ですから、原子力政策を進めていく上で、敦賀もそうだと思いますが、「何とか頼みますよ」と言われると、この人がこれだけ頑張るんだったら応援しようかなみたいな気持ちにほだされるような地区なんじゃないかなと。その中で絶対に間違いがないようにということで進めてきたわけですし、当時は私、子供の頃ですけれども、鉄腕アトムとかマジンガーZとかそういう、何か夢のエネルギーみたいなところがやっぱりありましたので、そういう中で国策ということに対しての協力ということをしてきたんだと思います。

ただ、今、国策で長いエネルギー政策が示されているのかということ、なかなかそこが示されていないというのが現状ですので、その中で原子力はどうなっていくのかということ、こうなっていきますよという長いスパンを示していただいているのかということ、そこはなかなかそうじゃないと思っています。

東日本大震災があって今は10年止まっていますけれども、10年前に「10年止まりますよ」と言っていたら各自治体はそれなりに考えることがあったと思うんですけれども、そうじゃないのを引きずって今現在に来ているところにジレンマを感じます。ですから、原子力政策を応援していくつもりでおりますけれども、その中では、やっぱり国策であるということ的前提として、強い方向性を持って示していただきたいというのが正直な私の気持ちです。

【記者】 いろんな、エネルギーミックスとかものすごく叫ばれている中ではあるんですけれども、じゃ国はどういうふうはこのエネルギー政策を進めていくのかという、その方向性というのをなかなか国は示していないと、そういうふうにお感じになっている部分はあるということでしょうか。

【市長】 そうですね。3年置きにエネルギー基本計画の見直しをしていただいていますけれども、そのエネルギーミックスというのを出したときに、今出してありますけれども、これは30年変わらないんですかということ、そんなことはないでしょうと。そうすると、いつかどこかで変わるんですよねということがありますよね。でも、それに乗っかっていく自治体は、その流れというのは何年間引きずるんですか。何十年も引きずるんですね。それをどういうふうに、要は私たちに見えるようにしていただけるかというのは非常に大事な部分だと思います。

【記者】 あとは、原発というものそのもの自体は、やはり今後、日本においてエネルギーの重要な発電になると、それが必要なものだというふうには市長はお考えでしょうか。

【市長】 そうですね。原子力を選ぶ前にいろんな選択肢があったと思うんですね。それから、石油、石炭から代わっていく上で、天然ガスもその当時はあったと思いますが。そうすると、風力とか地熱とかほかのことがいろいろあった中で、国際的に戦えるものというものを考えたときに原子力があったんだと思います。ですから、その原子力を育ててきてこの50年使ってきたノウハウとか技術とかというのを捨てることのできるような新しいエネルギーとか技術があるのかということ、そこは今でも疑問ですね。

ですから、一足飛びに行けるような技術革新があればそこに行けばいいんでしょうけれども、以前に同一のことを聞きましたけれども、風力ですかね、再生エネルギーにシフト

したけれども、結局、安定しないので石炭とかを使ってコスト的に上がってCO<sub>2</sub>も増えてという話もありますので、その辺をどういうふうに示してくかというのは、模索してくのは非常に大事だと思います。

【記者】 あと、全然別件なんですけれども、コロナの関係で、ちょうどこの定例会見1か月前の時に接触確認アプリのCOCOAについて結構騒動になっていたタイミングだったかなというふうに思います。

その後に厚労省がそのアプリの不具合というのが、結果的には声が多くて更新するというふうな形を取られましたけれども、一応、市としては、県を通じて国のほうに、結構通知があったけれども感染者はいなかったということに対してのその原因がアプリ自体にあるのかどうかということも含めて、ちょっと原因究明というのをされていたように思うんですけれども、それに対してのお答えがあったのかということと、今後、何かそこをまた追及していく方針というか、それはあるのかどうかをお聞かせください。

【市長】 そうですね。まず一番最初、敦賀市のほうでたくさん出たんですけれども、最初24人、次の日が33人でしたっけね、追加で人が増えましたけれども。出ましたけれども、24人出て、次の日に三十数人駄目なんだと言われたときに、もうその部を閉めなくてはいけないかということまで議論があったんですけれども、これは非常に感謝したいんですが、県のほうでしっかりと検査をしていただいて、次の日の朝6時に分かったんです、全員何ともないというのが。ですから代わりに出勤できましたので、業務を止めることなくできたというのは非常にありがたかったなというのが一つあります。

県のほうにお願いして厚生労働省への要望も出しておりますが、不具合については何にも答えは来ておりません。

別で、高木先生のちょっと肝煎りでウェブ会議を厚生労働省とさせていただきまして、それで直接細かい状況もご説明させていただきましたけれども、結果としてはどうなんですよということは出ていないんですが、ソフトの更新を行いましたということは連絡は来ましたので、そういう対応だったんだなと思います。ですから、悪かったとかどうということだったという話は一切ございません。

【記者】 結局、何ということも説明はないということですかね。

【副市長】 厚労省の方、どういう状況かという調査には来ていただきましたので、そのときに、今市長がおっしゃったようなことをお答えしています。

そうした中で、交換といいますか、何かアプリもバージョンアップしていくということで、県を通じてそういうことをしましたというのはこちらにも入ってきていますし、それでさらに何か追及するののかというと、ご存じのように、全国的にいろんな事例が出ていますので、それは厚労省、今後も引き続き何か不具合とかがあれば更新していくと思いますので、何か現在、都道府県の中で結構、はやっていると言ったらおかしいんですけれども、都道府県の中でCOCOAの通知が結構来ているというふうなことも聞きましたけれども、その都度その都度バージョンアップしていただけたと思いますので、これ以上何をすることもないんだろうなというふうに思います。

【市長】 COCOAの接触者と、一般に言う濃厚接触者とが違うということを私ら分かりました。ですから、濃厚接触者は本当に濃厚接触者でうつたかもしれない人たちですけれども、COCOAはたまたまその時に近くにいたという人なので、そこにアクリル板



があったかもしれないですし、そこは分からないので、ですから、そこまでナーバスになる必要がないものなんだということは認識しました。

【記者】 先ほどの新幹線開業に向けたというところで、これで施設の整備、あとはこういうふうなイベント、プロジェクションマッピングとかそういったものがどんどん見えてきましたが、実際にこれでスケジュール感というか、あと2年半、この中で市長が足りないものと思っておられることとかこうしていきたいなと思われていることがあれば、まず教えていただきたい。

【市長】 そうですね。本当はコロナがなければ今年ダイヤモンド・プリンセスが4回来ていますので、4回来たことで新幹線開業時にぎわいというのを疑似体験できるというのを非常に楽しみにしていたんですけれども、そのときに敦賀だけじゃなくてほかの市町にも回遊するパターンがありますから、そういうことも形づくっていきたいなと思ってはいたんですが、ちょっとできていないのが少し心残りなんです、コミュニティバスのぐるっと周遊バスなどの運行を少し変えておりますので、これをもう1回見直したり、間隔を短くしたりしなくてはいけないということを思っていますし、あとは、駅の構内の観光施設なんか、観光ボードなんかの施設なんかも作っていかなくてはいけないと思っていますが、そういう意味では、先ほども申しましたように、敦賀の中のいろんなことは大体できてきましたけれども、ほかの市町とのつながりを持って、こういうふうにしらしていかうとかこのルートがいいよねとか、そういうことはまだできていませんので、そういうところは今から詰めていかなくてはいけないというふうに思います。

【記者】 イベントといいますか盛り上げが今のままで盛り上がるのかどうか、いろんなことをされていて。例えば今のバスとかは分かるんですが、実際に人がいっぱい来るようなそういう観光の誘客ができるのかということなんですが、実際何かそういう隠し球があるのかなとか、どういうふうにしてお客を呼ぶのか。今この見えてきているもので大体それがそうなのということなのかどうかと、そこら辺を。今はまだお考えとしてこんなものがあればいいなみたいなものがあればということ。

【市長】 今やっていることになりましたけれども、新幹線の受け皿として人道の港ムゼウムができてきましたけれども、そのほかに、日本遺産認定の中で北前船と、今回、鉄道遺産ができてきました。それだけではちょっと足りないなという思いがあって、それは何かといいますと、食べ物ももう少しあったほうがいいのかというところの中で、敦賀真鯛、今やっていますけれども、敦賀ふぐ、敦賀真鯛、カニ、それから東浦みかんなどがありますので、その辺が食べ物として発信できればいいなというふうに思っています。

ただ、ほかにも敦賀は歴史とか観光名所がいっぱいありますので、そういうところも少しずつ発信していきたいと思っていますけれども、観光キャンペーンガールとか、観光協会のほうもSNSの発信ができる人というのを選んでいきますし、今回、地域おこし協力隊でもそういう人たちを選んできましたので、その人たちが発信することで今のよさというのを出していけたらなと思っています。ですからハード的にはかなり押さえてきたんじゃないかと思っていますし、この後、開業までに進んでいくと思っていますけれども、ソフト的なものとして少し発信をしていかなくてはいけないというふうに思っています。

【記者】 国道8号線の、この前、完成したときイベントがあって、そこに幾らかキッチンカーと出店が出ていたと思うんですけれども、市内はたしかべっぴん会さんと、あと

もう1個キッチンカーで、あと3つぐらいはちょっと市外の方だったのかなと思いました。ああいうふうなハードというかスペースができて、それはいいことなのかなと思うんですけども、実際あそこに出てくるお店とかが、神楽町は幾らか出てくるのかなと思ったんですけども、例えば本町のほうからとか、ほかに出る人はいるのかなとも思ったりして、あそのスペースを使う周辺の商店というのは今現状のままで足りているのか、もうちょっとやっぱり増やしていかなければいけないのか、どういうふうにお考えかなとお聞きしたいんですけども。

【市長】 ありがとうございます。

神楽通りは皆さん頑張っていっていらっしゃるの、それぞれにぎやかになってきましたけれども、本町通りはやっと工事が終わりましたので、ここからという形になると思いますが。じゃ、本町通りの空き店舗を全部開けるほど敦賀市内に商売人さんがいるかという、なかなかそこはその数はいないんじゃないかなというふうに思います。そうしたときに、次にどうするのかといいますと、商売をやりたい人とか、もしくはほかの地域でキッチンカーなどで商売をしている人たちが敦賀に来て店を出したりしてご縁をつくっているうちに、じゃ、敦賀でお店を持って商売しようかなと、そういう形にならないかなというのが狙いなんです。ですから、ケータリングも使いやすくしているのは、敦賀で物を売ると結構売れるねとか、自分の顧客が増えてきたなとか、そういうところで、じゃ、敦賀で出そうかなというふうに思ってくれるといいなというふうに思っています。そういう仕掛けをしていきたいと思っていますし、よそから幾らでも移住、定住なんかで住もうと思ったときに住みやすい環境もつくっていききたいということで、遠回りみたいに感じますけれども、空き店舗なんかそういうところを埋めていけたらなと思っています。

【記者】 ありがとうございます。

【秘書広報課長補佐】 ほかにいかがでしょうか。

それでは、これもちまして10月の市長記者会見を終わらせていただきたいと思います。ありがとうございました。

午後2時 13分 終了